神楽名 **生目神楽**

伝承地 生目自治区
宮崎市大字生目

指定等 県指定無形民俗文化財

伝承団体 生目神楽保存会
代表　太田原　政行

鬼 神 舞

❖ 神楽の概要・由来・その他

生目神楽が継承されている生目自治区は、宮崎県の南東部に位置する宮崎市の大淀川下流域にあり、稲作が盛んな土地である。生目神社の創建は定かではないが、『宇佐宮神領大鏡』には天喜４年（1056）には建立されていたと記されている。生目神社の様々な縁起の中でも色濃く伝承されているのが景清伝説である。平家の侍大将藤原景清公が日向に下ったのち、源氏の世を見るにしのびず、自らの眼をえぐって投げた。生目神社には、その眼が祀られていると伝わっている。御祭神として品陀和気命（応神天皇）とともに藤原景清公など五柱をお祀りしている。

生目神楽のはじまりは不明だが、寛政８年（1796）の荒神面や、彫刻の技量に優れた禅僧・平賀快然の銘「祐舎」が刻まれた鬼神面などが現存していることから、近世には成立していたと考えられる。

生目神楽は、毎年３月 15 日に近い土曜日の昼から深夜にかけて奉納される半夜神楽である。神楽殿の注連柱（三本）は、祭り当日の朝に奏楽とともに中央から立つ。色弊は陰陽五行説に則り、方位や色が定まっており、八本の白弊は八百万の神といわれている。無病息災や五穀豊穣を祈念する作神楽を中心に、太鼓の緩急が激しく、力強い足運びの雄壮な舞が多いことが特徴である。

❖ 芸能の機会・場所

- 縁日祭..旧正月15、16、17日に近い金・土・日曜日。
  １番あたり15分程度に短縮して、２～４番ほどが生目神社神楽殿にて奉納。
- 里神楽祭...３月15日に近い土曜日の13～23時頃まで生目神社神楽殿にて奉納。

❖ 演目一覧

神事	浦安の舞	1番：神酒舞	2番：鬼神舞	3番：一人剣
4番：柴荒神	5番：岩通	6番：方社	7番：稲荷山	8番：里人
9番：陰陽	10番：神武	11番：三笠荒神	12番：三人剣(とこしこ)	13番：太玉
14番：二刀	15番：三笠	16番：将軍	17番：薙刀舞	18番：金山
19番：氏舞	20番：四人剣(四人神示)	21番：杵舞	22番：田の神	23番：神送り

※令和５年(2023)３月に奉納された演目に基づく

❖ 演目の特徴

「方社」「稲荷山」「里人」「陰陽」「神武」の五番は連番で「大神神楽」または「岩戸神楽」と呼ばれている。生目神楽の核をなす演目であり、先導役の神が関連する神々を導き出し、国の成り立ちや太鼓のいわれについて語る。一方で、「太玉」も岩戸開きに関連が深く、高千穂系神楽にも同様の演目がある。岩戸開きを連想させる演目が２つあることは、宮崎平野に伝わる神楽の特徴の一つとなっている。

また、「杵舞」や「田の神」など、豊作祈願や子孫繁栄の演目に重きが置かれている。「杵舞」は、豊作を予祝し祈願する舞で、「田の神」は、田の神と神主との問答のなかで、国生みや農耕について教える。春神楽らしく、笑いに包まれ、和やかな雰囲気のなか神楽が奉納される。

❖ その他の特徴

- 面...鬼神面、まねこず、田の神・里人、金山(ニクァ面)、氏舞、稲荷山、荒神面、神武、太玉 等
- 楽...太鼓(大木をくり抜いたもの、桶式)、龍笛(りゅうてき)
- 装束...白衣、狩衣(かりぎぬ)、裁着袴(たっつけばかま)、大口袴、羽織、千早、烏帽子、毛頭(けがしら)、天冠(てんかん) 等
- 採物...鈴、扇、刀、薙刀、弓、矢、根のついた榊、大麻(おおぬさ)、荒神棒、鬼神棒、箕(セクムン)、襷(たすき)、杵 等
- 文書...神楽歌本
  （古文書などの文献は残っていない）

❖ 伝承の現状・課題

戦時中の舞手の減少によって、本来33番であった演目のうち、計９番が継承されておらず、また、一時は復活された「二人剣」も現在は舞ってはいないため、23番となっている。

若手後継者の育成に力を入れており、令和６年(2024)３月現在、神楽保存会には29名が在籍している。新たに生目自治区の住民となった者や、子供の頃から神楽を習っていた者が地元で就職し、舞手となっている。身体に大きな負担がかかる舞が多いため、一人の担当する舞を少なくすることや、安定した伝承のために複数の舞を覚えることを目標にしている。

神酒舞

三人剣(とこしこ)

田の神

宮崎県教育委員会　文化財課　令和６年(2024)３月発行